

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年8月25日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2775600675
法人名	有限会社 五和会
事業所名	グループホーム平和苑
所在地	泉南市樽井1丁目6番1号 (電話) 072-485-2424

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 8月 8日

【情報提供票より】(平成 21年 6月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	13人, 非常勤 4人, 常勤換算 15.38人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	1,100円 / (1日)
敷金	有 (円) 〇		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 〇	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要 (平成 21年 6月 25日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	9名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.7歳	最低	79歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人野上病院 (医科)、高松歯科医院 (歯科)
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人の病院の近くに位置し、以前は倉庫だった所を改装されたホームです。2ユニットですが、同じフロアに背中合わせのようにユニットが作られ、スタッフルームからはどちらのユニットにも行けるようになっていました。職員はユニット毎の固定ではなく、2ユニットすべての利用者を把握し、支援できるような体制になっています。合同でレクリエーションをすることもあり、利用者もすべての職員が顔馴染で戸惑うこともありません。利用者の重度化により、状態の変化を把握し対応するなど、日々の支援に様々な工夫をしながら、「個別性」を大切に、利用者が思いや意向を実現できるよう取り組んでいます。「私らしく、たのしく、ゆたかに」をモットーに、ホーム内にはいつも歌声や笑い声が響いています。母体法人が病院であることで、医療連携体制がとれており、多機能性を活かし、毎日の体調管理や通院、また重度化、終末期の受け入れなど、本人や家族の意向を聞きながら柔軟に対応しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目: 外部4)
	前回の外部評価では改善点はありませんでした。しかし、調査員からのアドバイスや助言を基にホームとしての改善点などを皆で話し合い、具体的に取り組んでいます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
重点項目②	自己評価は昨年まで管理者が作成し、職員に確認してもらっていましたが、今年は自己評価項目を職員全員に渡し記入してもらっています。職員からの意見や評価をもとに管理者がまとめ作成しています。今回の試みで職員も外部評価の意義を理解し、日常のケア等に活かしています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は、利用者、家族、民生委員、介護者家族の会、地域包括支援センター職員、市職員が参加し、2ヶ月に1回開催しています。市の職員からの提案で、消防署からの参加もあり、防災についての知識も深まる等、参加者それぞれにとって有意義な会議になっています。事故報告などは迅速に市に報告しています。地域密着型サービス事業者の交換研修会の実施にあたっては、市が中心となり実施についての意向アンケートをまとめる等、積極的な協力体制ができています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重点項目④	毎月「平和苑だより」を郵送し、ホームでの生活ぶりや行事、近況報告を行っています。職員の異動もお知らせしています。金銭管理も個別に行っており、請求時に領収書を添付した明細書を送っています。来訪時には残高を確認サイン、確認印をお願いしています。ホームには意見箱を設置していますが、意見があまり出されることがなく率直な意見を聞くことができない状況です。しかし、家族の来訪時には話しやすい雰囲気を作り、積極的に話す機会を作っています。ホームでの会議や研修などの必要性を家族からも理解を得ており、それに合わせて訪問する等、協力を得ています。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	近所の方が作った野菜をいただいたり、幼稚園の運動会に招待していただき、参加したりしています。またホームの1階を場所提供し、「布草履教室」を開催しており、利用者の家族が講師となり地域の方も参加し交流しています。毎年、ホームで行われる花火大会にはパンフレットで地域の方に開催をお知らせし、参加を得ることで、地域の方と楽しい時間を過ごしています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で、普通に当り前の生活を送り、その人らしく、豊かに、楽しく過ごし、ともに支えあい、寄り添う暮らしを支援しています。」をホームの独自の理念として掲げ、また「私らしく、たのしく、ゆたかに」をモットーとしています。職員は常に理念を念頭におき、ケアに取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はヘルパー室に掲げていて、職員はいつも目にし、意識して取り組んでいます。また理念を具体化して年間方針や取り組み目標を明確化し日々の業務に活かしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	近所の方が作った野菜をいただいたり、幼稚園の運動会に招待していただき、参加したりしています。また布草履教室はホームが主催で1階を場所提供し、利用者の家族が講師となり地域の方も参加し交流しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価では改善点としてはなかったですが、評価委員からのアドバイスや助言などから、ホームとしての改善点などを皆で話し合い具体的に取り組み、工夫されています。自己評価は今までは管理者が作成し職員に確認してもらっていましたが、今回は外部評価項目を職員全員に渡し記入してもらっています。そのことで職員も外部評価の意義を理解し活用することに活かしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、民生委員、介護者家族の会、地域包括支援センター職員、市の職員が参加し、2ヶ月に1回開催しています。市の職員からの提案で、消防署からの参加もあり、専門的な話も聞くことができ、防災についての知識も深まる等、参加者それぞれにとっても有意義な会議になっています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告などは迅速に市に報告しています。また相談やわからないことがあれば、市の担当者に聞いています。地域密着型サービス事業者の交換研修会の実施にあたっては、市が中心となり実施についての意向アンケートをまとめています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「平和苑だより」を郵送しホームでの生活ぶりや、行事、近況報告を行い、職員の異動もお知らせしています。金銭管理も個別に行っており、請求時に立替払いの領収書を添付した明細書を送っています。家族の来訪時には残高を確認しサイン、確認印をお願いしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームには意見箱を設置していますが、あまり意見が出されることがなく、家族や利用者から率直な意見を聞くことができない状況です。しかし、家族の来訪時には話しやすい雰囲気を作り、積極的に話す機会を作っています。ホームでの会議や研修などの必要性を家族からも理解を得ており、それに合わせて訪問する等、協力を得ています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員はユニット毎に固定せず、ホーム全体の利用者の把握に努めています。離職の際には「平和苑を卒業し新しい人生へ出発する」という明るい気持ちで利用者に挨拶し、少しでも不安を軽減できるよう配慮しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まず年間の目標テーマを決め、それに向けての月間目標、週間目標を計画的に作成しています。毎週木曜日に行われるミニカンファレンスで検討を行い、目標達成を確認し合うことで、職員間での質の向上に向け熱心に取り組んでいます。また研修受講後は、管理者がその研修内容に沿って個人に向けた課題を与え、直接研修を受けていないすべての職員に行き渡るシステムを試み実践しています。採用時研修の研修や「感染症」に関する研修計画、実施されていない状況です。	○	年間行事の中に必要な研修内容を取り入れ、職員採用時研修等の機会を確保することが求められます。また研修計画を作成し、実施することが求められます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に4回、市が主催する事業所間の意見交換会に参加しています。同業者からの意見や情報を交換することでお互いのサービスの質の向上に役立てることができています。また職員交換研修も行っており、さまざまな事を吸収し日々のケアにも反映しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至るまでに、本人や家族が納得いくまで何回も見学に来られた事例があります。部屋が空いていればお試し利用も可能です。その他、日中に来てもらい他の利用者と同じ時間を過ごしてもらうことで、ホームの雰囲気に馴染んでもらえるよう工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は、利用者が持っている能力に驚かされたり、感心させられたりすることもあり、利用者に「寄り添い」「支え合う」ことを常に感じながら、その人なりの個別性を大切に、共に過ごす時間を大切にしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位を基本に、利用者の意向をできるだけ尊重し、本人の状態にあった個別対応を心がけています。困難な利用者には家族から話を聞くなどし、意向の把握に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに「なんでも情報」を記録し、日常の暮らしから把握した特性を介護計画に取り入れて立案しています。ケアマネジャーや職員間でカンファレンスにて意見交換を行い、作成した介護計画は家族から同意を得てサインしてもらっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画内容をどの職員でもわかりやすくしたチェック表で毎日実施状況を確認し、更に毎月ケアマネジャーが実施状況を評価してモニタリングに活かしています。状態変化がない場合も6ヶ月ごとにカンファレンスを行い、計画を見直しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、通院、リハビリのための送迎支援や早期退院のための支援、点滴などの医療処置を受けながらの生活継続支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の病院から、毎週一回往診があります。その他に病院の看護師から毎朝体調の確認の連絡が入り、受診の必要な利用者にはすぐに受診ができるような手配ができ、連携が取れています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けては、苑での対応方針を家族へ説明し、事前意向確認書を提出してもらっています。医師、本人、家族、看護師、職員と話し合い、本人や家族の意向を大切にしながら、看取りも行えるよう支援しています。また、状態の変化がある度に話し合いの場を設けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が利用者と馴れ合いにならないよう「接遇」に関する研修にも力を入れ、ミニカンファレンス等でもよく話し合う機会があり、周知徹底しています。個人情報保護に関しても、入社時に誓約書を取り交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に日課行事はありますが、利用者のその日の体調やペースに合わせ、柔軟に対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから、買い物、調理までホーム独自で行っています。利用者と一緒に献立を考えたり、買い物に行ったり、材料の仕分けも手伝ってもらっています。食器洗いなども積極的に参加してくれています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望で、隔日の夕食後から就寝までの間で入浴時間を設けています。希望があれば昼間の入浴も可能です。利用者の重度化により現状の浴室では無理があり、シャワー浴となっている方もいます。今後は機械浴の導入も検討しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝洗濯物をたたむことや、布巾を干すことが日課となり、役割を持って生き生きとした張りのある生活を送っています。職員も本人の潜在能力を引き出し、把握するために「なんでも情報」を共有化し、支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に食材の買い物同行や散歩で外出の機会を設けています。また、2ヶ月に1度、個別外出を行っています。利用者の希望や意向を聞き、外食、買い物、墓参りなどに出かけています。今後は日々の外出を記録し、利用者の状況把握に役立ててはいかがでしょうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中開錠されており、2階にある居住フロアへ行くエレベーターもロックされていません。エレベーターから各ユニットに入るドアも職員の見守りができない場合を除き、常に開放してあり、自由に行き来することができます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時のマニュアルが完備され、年に2回の消防訓練を行っています。今年5月の訓練では計画段階から消防署職員の協力を得て夜間想定での避難訓練を実施し、具体的な振り返りも行っています。非常時の備蓄として食料品・水分を備え、定期的に消費・交換しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量は利用者全員分を把握し、記録しています。水分量も必要に応じて確認しています。食事内容については、摂取カロリーを把握しておく必要のある利用者もいるため、母体病院の栄養士に年に一度確認してもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階に向かう階段には利用者の作成した作品（水彩画、布草履、書道作品など）が飾られています。フロアを中心にオープンなキッチンと食卓があり、その横にソファコーナーも設置されています。お互いの存在を感じられる環境のなか、思い思いの場所で過ごすことができます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の前には季節感を出した表札（夏は貼り絵と写真の施された団扇）があり、居室毎にトイレもあります。タンスやテレビは備え付けのものが、利用者の希望や状態に合わせたベッド等を準備しています。家族の写真や作成した作品などが飾られ、快適に過ごせる空間になっています。		